
研究分野のキーワード：声楽，発声法，歌唱法，オペラ，合唱

研究紹介

私の研究分野は声楽で、特に発声法について研究しています。研究題目は、自然体による自然な発声法—声で『うた』を歌う—です。当たり前のようにですが、自然な発声は非常に難しく、又、一般的によく言われている発声法の中に間違いが多くあることがわかりました。

私は、2010年にお亡くなりになりましたが、世界的名バリトン歌手／ジュゼッペ・タッデイ氏のもとで発声法、歌唱法、特にオペラ唱法を学びました。氏の声は、声帯、喉、体等、全ての楽器が他の声楽家と比べてもすばらしく、非凡であったことも確かですが、楽器だけでなく、氏の発声法に大きな違いがありました。その結果、氏の声は、非常に自然で、耳のそばでフォルティッシモ（ff）を出されてもやかましく聞こえず、耳も痛くありませんでした。又、ホールで歌われた時も、やさしく包み込まれるように声が響いてきました。他の歌手の声は、舞台から直線的に声が聞こえてくるのです。そして、氏の歌は、オペラであれば氏が演じた役柄がはっきりとわかり、その場面の情景や心理状態まで伝わり、歌曲を歌われたときも、その言語がわからない人が聞いても、その曲や詩の内容が伝わってきました。私は、氏の発声法、歌唱法を体得する為に、16年間、氏の元で学び、その学んだことを基にして、今も研究を続けています。

私が考える良い声、発声法は、大きな声が出る、高い声が出る、よく響く声などではなく、聞いている人が心地よくなり、心に響き、伝わる声です。例え、理解できない言語であっても、演奏されている曲が、どんな曲で、どんな詩の内容か、どんな気持ちで歌われているかが伝わる声、発声法です。そのような声を出すにはどうしたらよいか、先にも書きましたが、一般的によく言われる良い声の出し方に多くの誤りがある事がわかりました。姿勢では、胸を高く保ち、胸郭を広げ、視線は少し上を見るようにする。呼吸法では、歌を歌う時は、腹式呼吸で歌う。又、発声法では、口を大きく開き、喉を開け、軟口蓋を高く上げ、響きを眉間に集め、息を後ろに引いて前に回す等々です。以上の様なことをして歌うと、私が考える良い声は出ません。又、声楽家や合唱団の人たちは、いわゆる良い姿勢で、ほとんど動かずに歌っています。これも自然な声が出ない大きな原因の1つであると考え、他の楽器演奏者や指揮者の演奏時の体の動きと声楽家とを比較し、自然な声、自然な表情で『うた』を歌う研究をしています。